

平成29年度福知山市施政方針

1【はじめに】

皆様、おはようございます。

本日、ここに平成29年第2回福知山市議会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては、御参集を頂き、ありがとうございます。

平成29年度の予算案をはじめ、その他の諸議案の審議をお願いするにあたり、私の市政運営に関する所信を申し上げ、議員並びに市民の皆様方の御理解と御協力を頂きたいと存じます。

本年、平成29年度は、福知山市政の施行から80周年を迎える年となります。

天正7年（1579年）、丹波を平定した明智光秀が福知山城を築いて以来、城下町として栄えた福知山は、北近畿の要衝として発展し、昭和12年4月に京都府で2番目の市として「福知山市」に生まれ変わりました。

その後、数度の合併を繰り返し、市域を広め、平成18年に福知山市、三和町、夜久野町、大江町の1市3町が合併して新生・福知山市となり、北近畿の枢要な都市として新たな発展に挑戦する時代を迎えています。

そのような中、昨年は、2021年5月の関西ワールドマスタースゲームズのソフトテニス競技が本市において開催されることが決定されました。2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続く国際大会の一翼を担うことになり感慨深いものがあります。現在、さらなる大規模大会の誘致に向けてその取組を行っているところでもございます。

また、かねてより懸案でありました長田野工業団地アネックス京都三和の立地について、株式会社YMCが最大区画を取得され、進出が決定されました。今後、早期の操業開始が待たれるとともに、立地に関わる様々な面からの波及効果もたらされるのではないかと期待されます。そして、さらなる企業誘致に向けて取組を進めているところでもございます。

これらは、市の職員、市民をはじめとする関係者の皆様と協働することによって実を結んだ好事例であり、今後ともこうした取組をひとつひとつ全力で進めていかななくてはならないと認識しております。

また、昨年開学し、平成29年度から定員が120人となった福知山公立大学は、推薦を除いた入試における志願者数が、902名となり、志願者倍率は全国国公立大学166校のうち、5番目の高倍率となりました。今後も、北近畿唯一の4年制公立大学として、設置者である本市も地域創生のモデルとなるよう、その取組を行っていかなくてはならないと考えているところでございます。

改めて、市議会の皆様の御理解、御協力にも感謝を申し上げます。

2【市政運営に関する現状認識】

私たちのまち福知山は、様々な資源があり、大きなポテンシャルを持っています。

そのポテンシャルを活かしながら、子どもたちが、健やかに育ち、学び、成長していく、市民の皆様が希望を持って安心して暮らし、豊かで幸せな人生を送ることができる、このサイクルを支え・繋げ・拡げていくことが基礎自治体の責務であり、このために市民の皆様提供すべき行政サービスをひとつひとつ積み重ねて、住民福祉を維持・充実させていく必要があると考えています。

一方で、そのような市政を実現するにあたり、私は二つの強い危機感を抱いています。

一つは、厳しさを増す財政運営についてです。

我が国の財政は、国・地方の債務残高がGDPのおよそ2倍に膨らみ、なおも更なる累増が見込まれ、一般会計歳出総額の2割以上を国債費が占めるなど、非常に厳しい状況にあります。加えて、円高などによる法人税収の減少などから平成28年度の国や京都府の税収見通しが下方修正されるなど、不安定要素を含みながらの財政運営を余儀なくされています。

本市の財政状況を見ますと、財政の弾力性を示す経常収支比率は、平成22年度決算では83.5%であったものが、平成

27年度決算では5年連続悪化して

93.5%となり、財政構造の硬直化が進んでおります。

その一方では、平成32年度の合併特例期間の終了を前に交付税の特例加算措置が縮減期を迎え、これまで享受していた、いわゆるボーナス加算が縮小され、加えて旧合併特例債の発行可能額も残り僅かとなっていることを鑑みれば、本来あるべき姿に逆行した状況であると見做さざるを得ません。

また、人口動態等により、中長期的には、交付税、市税、譲与税などの一般財源が減少していくことが見込まれる中、扶助費などの社会保障関係経費が増加するとともに、広い市域に多数抱えた公共施設の老朽化が進み、その維持管理補修費、更新費が増大しており、今後、財政運営を取り巻く環境はますます厳しさを増してまいります。

市民生活に活力と安定をもたらしつつ健全な財政基盤を確立するためには、現在進めている公共施設マネジメントを市民の皆様のご理解を得て、より一層着実に進めるとともに、予算や事業のあり方を見直すことが急務であります。

もう一つは、同じく厳しさを増す地域間競争についてです。

国は、長く続いたデフレからの脱却を目指し、経済の再生を最優先と位置づけ、一億総活躍社会の実現を目指し、戦後最大の名目GDP600兆円、希望出生率1.8、介護離職ゼロの「新三本の矢」を打ち、少子高齢化という構造問題を打開して、成長と配分の好循環の実現に向けて取り組んでいます。

本市を振り返りますと、年間製造出荷額約2,700億円の長田野工業団地を中心に産業が集積し、合計特殊出生率は1.96と全国でもトップクラスで、近隣市町に比べると人口減少率は小さくなっています。それでも、合計特殊出生率は人口置換水準である2.07に達しているわけではなく、人口の社会減の課題もあり少子高齢化は着実に進行しており、特に生産年齢人口割合の減少が顕著となっています。

また、インターネット環境や物流網の整備により、以前にも増して日本の何処にいても、金・モノ・情報が都心部と大差なく入手できる時代を迎えており、地方都市にも活性化のチャンスが訪れるなか、地域間競争は一層激しさを増しています。

ふるさと納税で言えば、平成27年度に約42億円以上の寄付額となった都城市の一方で、約4億円の収入減となったとされる町田市のような例が見られます。クラウドソーシングの拠点として人口増となっている町村があるかと思えば、専門人材の空洞化に喘ぐ地方都市も見受けられます。

ことほど左様に厳しい地域間競争をくぐり抜けていくためには、福知山の地域資源がもつポテンシャルを最大限に生かしながら、知恵を絞り、努力と工夫を重ねていかねばなりません。

最も危惧することは、福知山市が北近畿の拠点都市としての地位を得てきたことに安住して、あるいは今までの行政運営の考え方や手法に慣れ親しんでしまっただけで、ゆっくと、しかしながら着実に進行しているこの危機や環境変化への対応が、後手を踏んでしまうことです。

私は、「土地を知り、人を知り、人の心を知る」を信条としてまいりました。市政運営にあたっては、現地・現場を起点として事にあたる姿勢を、貫いてまいりたい決意であります。

加えて、「他を知り、他から学び、他と結ぶ」ことも肝要です。孫子に曰く、「彼を知らずして己れを知れば、一勝一負す。彼を知らず己を知らざれば、戦う毎に必ずあやうし」。疑似科学的用語ではあるものの、一つの警句として定着しているいわゆる茹でガエルにならぬように、他の自治体や地域活動の成功例や失敗例を学び、その良きところを吸収して福知山ならではのものを構築していくことが、新時代・福知山の基盤をつくっていくためには不可欠であります。

3【平成29年度予算編成】

平成29年度の予算編成にあたって、歳入は地方交付税4億1100万円の減、地方消費税交付金2億1000万円の減が見込まれることをはじめ非常に厳しい状況にあること、歳出は総合的な治水対策関連経費や一般会計から9億6902万7000円を繰り入れるe—ふくちやま事業の民営化経費をはじめ、社会保障関係経費の自然増などにより増加となる経費をスクラップアンドビ

ルドの観点から既存事業の見直しを進めるとともに普通建設事業費や他の既存事業の経費抑制を行い予算編成を行ったところです。

なお、全会計の実質的な市債残高は、昨年度比で１１．３億円減少いたしております。

全体の予算規模を申し上げますと、

一般会計は、総額３９４億８０００万円とし、平成２８年度に比べて１７億７０００万円、４．３％の減、特別会計の予算は、総額２３３億８１４７万２０００円、公営企業会計の予算は、総額２６７億６４０５万５０００円で、全会計を合わせますと８９６億２５５２万７０００円となるものでございます。

４【新時代を拓く基盤づくり】

さて、私は、昨年６月の市長就任以来、１０年後の福知山を考え、基礎自治体としての機能の充実と財政基盤の安定化を図りながら、元気の出るまちづくりに取り組むことを念頭に市政を進めてまいりました。

その初めての当初予算編成にあたっては、この考え方を踏襲しつつ、先に申し上げましたようにスクラップアンドビルドの観点から既存事業の見直しを進めるとともに普通建設事業費や他の既存事業の経費抑制を行い、その成果から得られる財源を真に必要な事業に振り向け、「新時代を拓く基盤づくり」予算として施策・事業を組み立てました。

まず、その主な内容につきまして、６つの施策ごとに述べさせていただきます。

（１）医療・介護・福祉・子育ての充実した暮らしづくり

第１に、医療・介護・福祉・子育ての充実した暮らしづくりであります。

団塊世代が７５歳以上に達する２０２５年、その先の時代も考え、市民の皆様が安心して子どもを産み、育て、暮らし、老いてなお元気に活躍できるよう、本市の医療・介護・福祉・子育ての総合的な体制づくりを進めていかななくてはなりません。

市民の皆様命と健康を守る市民病院については、医師の増員と４診療科を増設するとともに、電子カルテにかかるシステムを更新します。また、悪性新生物（がん）の治療法にかかる手術療法、化学療法、免疫療法、放射線療法の内、臓器を温存することが可能で身体に負担が少ない放射線外部照射器リニアックの更新を行うためその施設整備を行います。

また、昨年設置した「ふくちやま医療・介護・福祉総合ビジョン検討委員会」において、引き続き、病院医療から在宅療養までが一体となった地域包括ケアシステムの構築に向けた本市における医療・介護・福祉の具体的な方向性及び方策を検討してまいります。

高齢者福祉につきましては、来年度からスタートする介護予防・生活支援サービス事業の円滑な実施を図るとともに、その基盤づくりのため地域支援コーディネーターの配置や日常生活支援サポート団体の立ち上げを支援してまいります。

また、在宅療養者の介護者支援に向けて、「ふくちやま医療・介護・福祉総合ビジョン検討委員会」における検討状況を踏まえながら、その実態把握を進め、真に必要で効果的な支援策について検討を行ってまいります。

さらに、子育て支援の充実に向けて、切れ目のない体制構築のため産前産後訪問支援員を養成し、産前・産後の養育支援を行ってまいります。

くりのみ園については、小学生と保護者を対象に集団生活に順応し、社会性を高める支援教室を新たに開設するなどして、発達に課題のある児童の早期発見・早期支援・早期療育のさらなる充実を図ってまいります。

そして、何よりも、弱い立場にある人たちを支えていくことこそが市政の要諦だと考えており、障がいのある方に対する支援、子どもの貧困対策についても検討し、各般の手立てを講じてまいりたいと考えております。

手話や点字、要約筆記などの障がい者のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例制定に向けた取組を進め、すべての人が互いに尊重し、支え合い、いきいきと活動しながら共に生活し

ていく社会の構築に向けて取り組んでまいります。

子どもの貧困問題については、すべての子どもが生まれ育つ環境に左右されることなく、その将来に夢や希望をもって成長していけるよう、家庭の事情や経済的な理由等により、家庭や校外機関での学習が困難な子どもたちに対して、教員ＯＢや大学生など地域住民の協力によって学習支援の機会を提供する「地域未来塾」の拡充を進めるとともに、京都府の取組も視野に置きながら、「子ども子育て会議」の中に「子どもの貧困対策検討部会」を設置し支援制度について検討してまいります。

また、すべての児童が健全に育成されるよう、児童虐待について、その対応体制の強化を図ってまいります。

（２）安心・安全の生活・教育・防災基盤づくり

第２に、安心・安全の生活・教育・防災基盤づくりであります。

まず、だれもが快適に暮らせる生活空間の整備として、整備手法、サービス付き高齢者向け住宅の併設、福祉的サービス等の展開の検討などを行い、つつじが丘・向野団地建替基本計画の策定を行います。

また、地域の特性に応じた生活交通の維持確保のため、地域コミュニティ交通導入モデルとして、公共交通空白地有償運送事業を三和地域で進めるための立ち上げや運営に支援を行います。

教育については、「自分のために人のために社会のために『共に幸せを生きる』教育のまち福知山」を目標に、学校教育と社会教育が連携して、学んだことを自分の幸せや夢の実現のために活かすとともに、社会貢献できる人材の育成に努めてまいります。

また、大きな教育課題である不登校対策、いじめ問題につきましても、個別の課題に丁寧に対応するとともに、児童生徒が将来に希望をもって成長していけるよう関係機関と連携した支援に努めてまいります。

そして、児童・生徒・園児にとってより良い教育環境の整備を進めていく上で、「福知山市立学校教育改革推進プログラム・後期計画」に沿って小学校の適正規模・適正配置を図り、来年度は（仮称）三和学園校舎増築工事に伴う設計・地質調査業務を行ってまいります。

福知山公立大学につきましては、「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を基本理念に、持続可能な地域社会の形成、北近畿地域の地域創生、地域再生に向けた社会貢献を使命としており、企業・行政・教育機関・各種団体等との連携体制の構築を通じて、地域を担う人材の育成、地域産業振興と雇用創出、生涯学習の充実を図り、北近畿地域の発展に寄与できる大学を目指します。

さらに、昨年１２月に京都工芸繊維大学と締結された大学間包括協定も踏まえ、それぞれの大学の強みを活かして、北近畿地域の「知の拠点」づくりを連携のもと進めるとともに、両大学の教育研究環境の充実に向け「知の拠点」整備構想を策定します。また、「学びの拠点」として市内外で大学の講義等を実施する「まちかどキャンパス」事業などを支援します。

防災対策の強化については、本市は平成２５年、平成２６年と甚大な被害を被った災害に見舞われましたが、昨年は大きな災害もなく過ごすことができました。しかし、今年になり豪雪に見舞われ、市内の約半数のビニールハウスが全半壊したことをはじめ、市内各所で雪害が発生しました。本定例会でも、農業生産施設緊急復旧対策の補正予算をお願いいたしているところであります。

また、昨年の熊本地震などの自然災害や糸魚川の大規模火災など数多くの災害の状況から、あらためて防災力強化に取り組む必要性を強く認識させられたところであります。

そのような中で、水害との戦いを続けてきたまちである本市にとって、水防活動の充実強化は喫緊のことから、国土交通省が戸田地区で整備を進めている「戸田地区河川防災ステーション」内に水防活動の核となる水防センターを建築するための設計業務委託料を計上しています。

また、国の「由良川の緊急的な治水対策」を受けて、由良川中流部改修関連事業を推進しますとともに、築堤の早期完成や宅地嵩上げ事業の早期完了に向け引き続き関係機関への要望を進めてまいります。さらに、弘法川・法川流域における調整池等の整備や農業用ため池に洪水調整機能を付

与した改修、土師地区の浸水対策を推進してまいります。

(3) 市民すべてが活躍するまちづくり

第3に、市民すべてが活躍するまちづくりであります。

市制施行80周年、そして福知山市市民憲章推進協議会設立25周年を迎えるにあたり、市民憲章推進協議会主催による「未来の力祭典」を、本市の未来を託す若者、大学や地域等と連携・協働し発表の場、交流機会を創出する場として開催します。

また、昨年4月から「女性活躍推進法」が施行され、本市も第3次福知山市男女共同参画計画「はばたきプラン2011後期計画」に基づき男女共同参画社会の実現に向けた取組を進める中で、女性があらゆる場において活躍できることを目的に京都府と連携した女性活躍応援事業を実施し、地域における女性の活躍を支援します。

さらに、次世代の担い手でもある高校生を中心に、市内の高校ごとに将来のあり方やまちづくりの未来について意見を交わす「次世代交流ワークショップ」を開催し、新時代を切り拓く人材を育成してまいります。

文化・スポーツについては、「文化芸術振興基本方針」、「スポーツ推進計画」を策定し、本市としての文化芸術振興、スポーツ推進に関わる基本的、体系的な方向性をまとめ、文化・スポーツを活かしたまちづくりを進めていきます。

また、新たな後継者の育成を図る「伝統文化後継者育成事業」により貴重な本市の伝統文化である丹波漆、丹後和紙の伝統技術等の継承に取り組んでまいります。

さらに地域において、地域課題の解決に向け取り組み、地域づくりを進めるリーダーとなる人材を育成していくため、地域づくり人材育成を進めてまいります。

(4) 新たなPR・観光戦略に基づく魅力づくり

第4に、新たなPR・観光戦略に基づく魅力づくりです。

本市には、自然や歴史・文化、生活などに根ざした地域資源が数多く存在しています。そうした資源を再発見・再定義しながら地域づくりに取り組み、新たな魅力を創出し、戦略的に福知山市のPR（パブリックリレーション）活動を展開していくことが、本市に新たな価値をもたらすものと考えております。

そこで、まずは本市全体の広報について一元的かつ戦略的に組み立てることに改め、マスメディアなどを通じて効果的に発信してまいります。

観光地域づくりセンター（仮称）は、観光地域づくりの拠点となります。地域の取組を生かしながら、観光を切り口としつつ新たな視点や手法、外部とのネットワークなどを取り入れ、魅力創出・向上を進めてまいります。

三段池公園は、これまでの福知山マラソンに加え、関西ワールドマスタースゲームズを通して福知山を世界に発信する拠点となります。残り4面のテニスコートを全天候型に改修するとともにトイレの更新・改修を進め利便性や快適性を高めながら、国際規模・全国規模の大会誘致を積極的に行い、スポーツ観光に積極的に取り組んでまいります。

「肉のまち」は、これまでの「スイーツのまち」に加えられる新たなストーリーです。単に食の機会を提供するのみにとどまらず、他にはない特長や質の高さを確たるものとしながら、様々な機会を通じて市内外に発信していきます。

あしぎぬ大雲の里は、その立地や建造物に少なからぬポテンシャルを有しています。そのあしぎぬ大雲の里と由良川の景観・歴史・文化等の特性を活かした良好な水辺空間の形成を連携させ、地域振興、観光振興を図るため、かわまちづくり支援制度の認定に向けて、地域住民等を中心とする検討委員会を設置します。

(5) 産業振興をめざした事業者支援と人づくり

第5に、産業振興をめざした事業者支援と人づくりであります。

長田野工業団地への企業集積をはじめ、アネックス三和というフロンティア、商工会議所及び商工会の熱心な取組、交通の要衝にあたる地理的特性など、企業活動にさまざまな利点が存在しています。そうした価値を生かしながら、これまでの補助金を中心とした支援とは異なるアプローチを取り入れることによって、厚みのある産業振興・中小起業支援を行ってまいりたいと考えております。

「福知山産業支援センター（仮称）」は、販路を開拓したい、新事業に取り組みたい、新商品を開発したいという、あらゆる事業者のための支援拠点となります。センター長は、全国公募により地域の活性化を図ることができる人材を登用し、様々なニーズに対応できるよう関係機関と連携して継続的な支援体制を構築してまいります。

また、本市の経済、雇用の大きな柱である長田野工業団地は、工場立地から30年以上が経過する企業が8割を占めていますが、引き続き優良な操業環境を提供し、長期的な事業継続と拡大、市外への流出防止にもつなげ地域経済の活性化を図るため、利活用増進計画を策定します。

そして、本市への企業誘致、市内既存企業の設備投資と新規雇用を拡大するため、奨励金の限度額の拡大やU・Iターン者雇用への加算措置の新設などを行い、市域内経済の活性化、雇用の創出を促進します。

さらに、伝統文化として伝えられる「丹波の漆かき」と産出される「丹波漆」は、全国でも優れた「漆」として知られ、文化庁からは国宝、重要文化財の修理修復は原則国産漆を使用すると通知されたことをはじめ、近年その需要が高まっています。本市の貴重な資源でもある丹波漆について、文化の継承とあわせ漆工芸品の創作・開発、生産・流通・販路の拡大に向けた取組を行うため丹波漆振興プロジェクトを進めてまいります。

有害鳥獣の被害は依然として大きなものがあり、引き続き喫緊の課題であります。来年度は中丹地域有害鳥獣処理施設に一時保管の冷蔵庫を増設し、ピーク時の稼働需要に対応します。また、大丹波サル対策広域協議会に参画し計画的なサル対策を進めます。

（６）対話の市政・経営力の高い市政の推進

第6に、対話の市政・経営力の高い市政の推進であります。

あらゆる施策を実効たらしめるため、安定的かつ継続的に実施していくためには、健全な財政基盤の確立はもとより、市民のニーズを捉えるとともに市の方向性を共有するための対話の継続、迅速かつ的確な政策判断・行政対応を実現するための体制構築や資質向上が不可欠であります。

本定例会には、自治体の基本的なルール、市民の権利、まちづくりの方向性などを規定した自治の基本原則となります「福知山市自治基本条例」の制定をお願いしております。本条例の制定によりまして、市民の皆様の主体的な参画のもと、市民自治の確立と発展をめざした新たなまちづくりを進めていくための、市民の皆様と行政が対等な立場で取り組んでいく体制を構築してまいります。

また、講演会などを通じ自治基本条例の周知を図るとともに、市民の皆様と市民協働や地域協議会制度のあり方について意見交換などを行う「みんなのまちづくり推進事業」を進めてまいります。

そして、本市における住民自治を推進するため、住民自治を担って頂いている組織の代表者や大学関係の識者で構成する住民自治検討会議を設け、福知山市における住民自治組織等の課題などについて議論を進めます。

さらに、今日まで、市民の皆様との対話の観点も含め、より実態に即した中期財政見通しの策定・公表、予算編成過程の見える化とそれに伴うわかりやすい予算関連情報の取りまとめ、事業棚卸しの実施など、行政経営マネジメントシステムを実効たらしめるために取り組んでまいりましたが、未だ端緒に就いたばかりであります。

来年度においては、今年度に引き続き約400事業の棚卸しを実施し、行政経営マネジメントシステムの構築に努めてまいります。

厳しい財政状況のなかで独自の歳入確保を図るため、ふるさと納税につきまして、地域振興の観点を盛り込むとともに、企業版ふるさと納税への取組を加速させながら、さらに効果を拡大させてまいります。

そして、市民サービスを提供する市政の運営について、職員の育成は非常に重要です。これまでの研修に加え外部研修機関である一般財団法人地域活性化センターの地域リーダー養成塾や土日集中セミナー、福知山公立大学などでの研修も行い、職員の資質強化、人材育成を進めてまいります。

5【中長期的計画に位置付けた課題への対応】

次に中長期的計画に位置付けた課題への対応について数点申し上げます。

今後も「福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略」、「未来創造 福知山」に基づく各種施策についても、不断に見直ししながら、適切かつ積極的に推進してまいります。

まず、福知山東部地域と中心市街地とを結ぶアクセス道路として整備を進めております都市計画道路・多保市正明寺線（高畑工区）につきましては、取合道路の整備を行い新橋の供用を開始した後旧橋の撤去に着手する予定であります。

上下水道事業につきましては、市民生活や産業活動を支える重要なライフラインとして、より災害に強い施設整備を目指してまいります。

水道事業は、簡易水道を上水道に経営統合するとともに、老朽化した管路や施設の更新及び耐震化を進め、水道水の安定供給に努めます。

また、水道事業及び下水道事業の料金を今年7月使用分から改定し、適切な施設の維持管理と計画的な施設の改築更新を図ることとしております。市民の皆様の大切なライフラインである上下水道をこれからもしっかりと守っていくため、何卒、御理解、御協力をお願いいたします。

環境対策につきましては、引き続き「ごみの発生抑制、再使用、再資源化」を推進するとともに、再生可能エネルギー施策の推進や省エネルギー対策の啓発等に取り組むことにより、環境に配慮した生活スタイルの構築を目指します。

また、不燃物埋立処分場の容量を確保するため、第1期・第2期最終埋立処分場の嵩上げに着手します。

なお、国民健康保険事業につきましては、被保険者数の減少による保険料収入の減少、一人当たり医療費の増加等により、非常に厳しい状況にあります。被保険者の生活習慣病予防や疾病の早期発見・早期治療の啓発に取り組み、伸び続ける医療費の抑制に努めてまいります。また、平成30年度の国保広域化に向け、京都府と連携をとりスムーズに移行できるよう進めてまいります。

6【むすびに】

結びに、私たちの大切な「ふるさと福知山」を、心豊かに暮らせるまちとして、名実共に北近畿における中心となるまちとして、末永く存続・発展させていくには、今を生きる私たちが、取り巻く状況を踏まえながら、将来世代に引き継いでいける基盤づくりを進めていかななくてはならないと考えております。

明日の福知山を将来に繋げるには「人」と「財」が不可欠です。

市民の皆様の安心・安全な生活を守り、活力あるまちづくりを進めるためには、福知山というまちの持っているポテンシャルを最大限に引き出せる人材、多種多様な課題に対応できる人材の育成に努めるとともに、しっかりした財政基盤の構築のため行政経営マネジメントシステムの機能化をはじめ、さらなる行財政改革にも取り組んでいかななくてはなりません。

本定例会に提案をさせて頂きました予算は、いずれも福知山市の将来を切り拓くため、今の市民生活を支えるため、必要欠くべからざる予算として編成したものであります。

議員の皆様、並びに市民の皆様方の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。施政方針とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。